

夫が背中を押してくれた、 子どもを連れての 地方転勤



石川県
健康福祉部少子化対策監室子ども政策課長

たき
にわ
滝 仁和

Profile

平成22年・総務省入省(1種(行政区分)採用)
総務省自治財政局財政課総務事務官
新規採用職員研修、地方財政制度に関する業務

転勤

平成22年・福岡県企画・地域振興部市町村支援課主事
地方交付税の算定業務

平成23年・総務省消防庁消防・救急課総務事務官
消防組織・職員に関する制度の企画・立案

平成25年・総務省自治行政局選挙部管理課総務事務官
国政選挙の執行、選挙訴訟への対応

平成26年・～出産 育児休業(1年2か月)

平成28年・総務省政治資金適正化委員会事務局
主査

政治資金監査制度に関する企画・立案
～出産 育児休業(4か月)

転勤

平成29年・総務省中部管区行政評価局富山行政
評価事務所評価監視調査官
行政評価に関する業務

平成30年・石川県総務部市町村支援課担当課長
石川県庁への出向、市町の行政支援
に関する企画・調整

平成31年・石川県健康福祉部少子化対策監室
～現在
子ども政策課長

地方勤務で 地方自治体・現場の 考えを学ぶ

地方自治分野に取り組む総務省の職員は、地方自治体や現場の考えを学ぶため、複数回にわたって地方勤務の機会が設けられています。私が入省1年目で配属されたのは福岡県庁の市町村支援課で、地方交付税の算定業務に携わりました。東日本大震災の影響もあり、一年弱で本省へ戻ることになりましたが、地方のそれぞれの実情を知ることができた貴重な機会でした。

その後、選挙部管理課に配属された頃は、様々な制度の変わり目にあり、国政選挙の執行をはじめ、民主主義という国の根幹を支える重要な業務に携わることができました。成年被後見人選挙権訴訟で違憲判決が下されたことをきっかけに、国会で法改正がなされた頃でもあり、一人の訴えから制度が変わる瞬間を垣間見られたことは、今でも印象深く残っています。一人一票という、誰にでも与えられる普遍的で公平な権利である選挙、そのような特色ある行政事務に携われたことは、得難い経験でした。

そんな多忙な時期が過ぎたタイミングで、1人目の出産。復職後は、それまでの選挙部での経験も活かせるのご配慮もあったのか、政治資金監査制度に携わり、その後2人目の出産を迎えました。

小さな子どもを連れての 地方転勤

● 保育園探しに苦勞、上司の配慮に感謝

ちょうどその頃、夫の富山県への転勤が決まったため、出産後に富山県へ引っ越し、その年の8月に私も富山行政評価事務所での復職が決まりました。

富山では、総務省の行政評価部門の地方支分部局として、農業の6次産業化に関する政策評価や、空き家対策の行政評価を担当。実際に現場に足を運んで、農家や精肉店を営む方へ話を聞いたり、空き家を調査するなど、フィールドワークの要素もある大変興味深い業務に携わりました。政府の担当府省とは異なる立場から、様々な角度で調査をし勧告を行うという作業は、地方自治分野に取り組む身にとって、現場から制度を考える重要性を改めて感じる機会となりました。

ただこの時に困ったのが、2人の子どもの保育園探しでした。私自身石川県の出身で、北陸地方の充実した子育て環境や待機児童数ゼロであることは知っていたつもりでしたが、年度途中での入園であることや、地域によっての空き状況の違いにより、入園できるところがすぐには見つからなかったのです。また、調整指数が付く条件なども東京とは違う点が多く、自治体によってこれ

ほど変わるのかと戸惑いました。

その後半年ほどで、実家のある石川県への転勤が決まるのですが、富山時代の反省を活かし、かなり早い段階から町に問い合わせ、必要な手続きを確認しておくなど事前準備を入念にしておき、スムーズに入園することができました。子連れでの転勤に伴う保育園探しの苦勞を知ってか、富山行政評価事務所の上司が何かと配慮をしてくださったのは、とてもありがたかったです。

● 家族の応援や、先輩方の経験等が 後押しに

地方勤務については夫が、同じ仕事をする者同士、チャンスがあるなら絶対にやるべきと背中を押してくれました。また、私の場合は実家のある場所への転勤という恵まれた環境ではありますが、秘書課の方々の配慮や、諸先輩方の経験談やアドバイスが、やってみよう!という後押しになりました。何より車移動や自然環境など、東京にはない環境でのびのびと子育てができるというメリットに気付けたことは幸運でした。



豊かな自然環境で子育てができることも地方転勤のメリット

現在、夫と離れて暮らしていますが、平日は両親に全面的に育児・家事をサポートしてもらいながら、週末にはお隣の富山の家に帰り、一家団欒の時を過ごしています。

小さな子どもを連れて地方勤務することに大きな不安を抱えている方は多くいらっしゃると思います。家庭の事情やライフイベントを迎える時期など、タイミングは人それぞれだと思います。周りの皆が辿っているから私も外れないようにと、画一的なキャリアパスだけが良いとされる風潮ではなく、もっと多様なキャリアパス、多様なロールモデルが出てくると良いなと感じます。

子育て期でも キャリアを諦めないこと の大切さ

現在は子ども政策課長として、主に「いしかわエンゼルプラン」の改定にあたっています。地方自治分野の職員のポストとしては、市町村を包括的に支援する業務が多いなか、一つの分野にじっくりと取り組み、予算から議会・委員会の答弁なども担当させていただいて、勉強の毎日です。社会的にも問題意識が高く責任の重い業務で、わからないことばかりですが、そういった仕事だからこそ、県民のニーズや現場の声を聞きながら施策を考えることのやりがいは大きく、地方勤務を希望してよかったと改めて感じますし、声をかけて

くださった上司には感謝しています。

出産、復職を経て思うことは、子育て期だからとキャリアを諦めるのではなく、少し勇気を出して、やりたい仕事をやらせてほしいと伝えることの大切さです。子どもが居るからといって仕事に対して消極的であると、自分にはできないかな…と一歩引く癖がついてしまい、どんどん自信も無くなっていってしまいます。自分自身を振り返ると、復職したばかりの頃などは、やはり仕事はある程度割り切って考えることも必要だったなと思いますが、一方で、育児中の先輩が「この時間までしか居られないけれど、もっと手応えのある仕事をしたい」、「ここまでならやれます」と自分から積極的・具体的に周りに交渉していた姿を見て、育児中でもそういった姿勢が大切だと感じましたし、自分自身もそうありたいと思うようになりました。

東京は特に核家族が全ての家事育児を背負い、仕事と両立するには多少の苦労は当たり前という空気がありますが、地方に来て、辛い時は人に頼れば良いし助けてもらえれば良いという考え方に会い、心に余裕が持てるようになりました。周りやキャリアを気にしすぎず、子どもを産みたい時に産める、産みますと言える世の中になってほしいと思います。



1日のタイムスケジュール例(転勤時)

- 6:00 起床
- 8:00 保育園送り、出勤
- 9:00 登庁、メールチェック
- 9:15 部課長会議(日程共有)
- 9:30 決裁処理、新聞チェック
- 10:00 課内打合せ
- 12:00 お昼休み
- 13:00 会議出席
- 14:30 部長ヒアリング
- 16:00 課内打合せ
- 16:30 資料チェック
- 17:00 課内打合せ
- 18:45 退庁
- 19:00 夕食、子どもたちとお風呂
- 21:00 寝かしつけ
- 22:00 就寝

女性職員への メッセージ

私自身、転勤は不安だけでしたが、実際に地方赴任してみると、保育所や車移動、自然環境など、子育て中の家庭にとってはいいこと尽くめでした。選択肢の一つとして、ぜひ考えてみてはいかがでしょうか。

人事課からの メッセージ

Q 国家公務員が地方公共団体で管理職として働くことの意義について教えてください。

A 行政サービスの多くが地方公共団体によって住民に届けられており、国家公務員が運用する立場での責任者としてその現場に携わる経験を積むことは、国として「あたたかい」社会システムづくりのために重要です。

Q 女性国家公務員が地方管理職として働くことをどのような形で支援していますか。

A 共働きの増加など家族の事情は男女ともに多様化・複雑化しており、交流人事で地方に赴任できる時期や場所についても様々な考慮が必要となってきています。職員と家族が生き生きと働き暮らせる環境づくりのため、地方赴任を含むキャリアパスも複線化していくことが重要です。

全ての希望を叶えることは難しいとしても、配偶者の勤務状況、親族その他のサポートの有無、子どもの進学・受験との関係など、職員とコミュニケーションをよくとって家族サポートが地方赴任をできる限り実現していきたいと考えています。